

# 詳論 ふくおか

未婚や晩婚化が進むなか、仕事が忙しいなどの理由で「婚活」(結婚活動)ができない息子や娘に代わって親がお見合いに臨む「代理婚活」に注目が集まっている。ニースの高まりを受け、自治体が支援に乗り出したケースもある。飯塚市が開いた「親のお見合い交流会」をのぞいた。

(浜村勇)

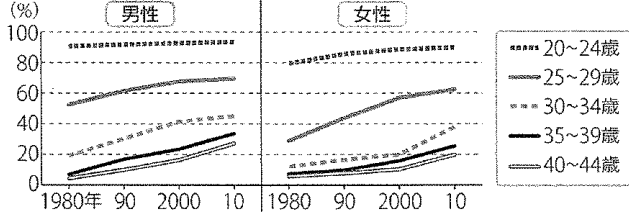
## 親が代理で婚活 熱視線

「息子は優しい性格なんですよ」「娘は看護師です」。飯塚市が5月に開いた交流会。市内の公民館に市内外から男女18人ずつの未婚者の親が集まった。男性側が順番に女性側のプロフィールカード、写真を見せ合いながら、熱心にわが子売り込んだ。

同居する長女(32)のために参加した直方市の女性(54)は「(娘は)自分でも婚活はしているようだけど……。仕事の都合もあって十分に時間がとれないみたい」と代役を買って出た理由を説明。「いつまでも一人というわけにはいかない。親として、早くいい人を見つけてあげたい」と思いを打ち明けた。

飯塚市は少子化対策として、こども・健康部が婚活支援に積極的に取り組んでいる。子育て支援にとどまらず、子どもが増えるため

福岡県の年齢階層別未婚率の推移



飯塚市が5月に開いた親のお見合い交流会

### ニーズ高まり 役所も後押し

代理婚活という、親が勝手に相手を決めてお見合いを設定し、半ば強引に結

の施策も必要と判断した。親からの問い合わせが多数寄せられたこともあって、昨年7月に親を対象にした交流会を初めて企画。男女28人の未婚者の親が参加した。同市によると、県内で、代理婚活の支援に乗り出した自治体はほかにな

代理婚活という、親が勝手に相手を決めてお見合いを設定し、半ば強引に結

婚まで持っていくといったイメージもつきまとう。一方で、①プロフィールや写真を交換したうえで見合いをするかどうか決めるため、無駄がなく効率的②結婚に際し親の反対にあう心配がない③といったメリットもあるとされる。

飯塚市の古賀正幸さん(40)、綾さん(37)夫婦は昨年7月の交流会がきっかけとなり、今年4月に結婚式を挙げた。

綾さんの母、浜田麗子さん(64)は「出会いにつながらる場をつくってくれた市には感謝の気持ちでいっぱい」。綾さんも「仕事が忙しく、結婚をあきらめかけた時期もあったけど、おかげで良縁に巡り合うことができました」と笑顔で語る。

同市こども・健康部の高倉孝部長(58)は「市がやるからこそ、安心してもらえる面もある。(古賀さん夫婦に続く)カプルの誕生

を心待ちにしています」と話す。

九州工業大情報工学研究院の安河内恵子教授(社会学)は、県が2007年にまとめた「未婚化・晩婚化に関する研究報告書」の作成に関わった。

た。たとえば代理婚活に参加する親は、子どもが定職に就き、ある程度安定した生活基盤を築いているケースが多い。「問題はそれ以外の人たちで、非正規雇用で生活が不安定だからといって、結婚に踏み切れない人も少なくないはず。出会いの場をつくるだけでなく、企業などと連携して若年層が経済的に安定する環境をつくることこそが、遠回りに見えるかもしれないが重要な対策になる」と指摘している。

### 未婚率 上昇傾向

平均初婚年齢も男女とも上昇が続き、同年の男性30・1歳、女性28・7歳。30年前に比べ、それぞれ2・5歳と3・2歳、晩婚化が進んだ。

背景には、収入が低い非正規雇用の若者が年々増えている現状もあるとみられている。